御後小九郎は平陸の九を陸附あされ日年四月十四日御
る誕生平九郎義盛公より代々紀伊周親附なる
同九月廿七日賀茂次郎義盛公が三男次郎行光甲斐公
南部を居住一あるが那軍頼朝公より糟谷津右衛門
塚三郎を召り蒲岡の荘に住す南部行光より盛子
の戸迄後者南部孫次郎政光楠山の四に登り京に
達す　又盛供兄云子十七故盛公家九後ス　此以後南部戸沢合戦度々後る南
部方打負り其後生八人貿を取和睦す其後人
質をたづね取返しおいて中絶せり
衡盛公逝去正治元己未七月十九日行年四十二歳葬

公御初少四人是迄南部氏歴代日年十一月
二十三日に供に四に喜太郎進度五郎休林越前五郎
当野小六陸奥寺死人戸沢左京治永七郎兵衛紀伊
定観を始三十人雑兵三百人是に依て戸沢の領知南
部の支配なり　戸沢を今に士八四に平三郎
傳の十郎大森八郎兵衛永山源三郎佐川源八入江九郎
小白川大膳次郎十蔵其外五七人あり如此後南部
の使者滝利新九郎を切て南部と手を切あり戸沢
元年丙寅三月廿七日子の刻戸沢を打立ての御供に
四に平三郎同喜太郎尾張平治大森兵衛兵衛永山